

6月の春日山交流会で、海外実顕地を訪問した人たちの話を聞きました。

「これからの海外実顕地への交流は、職場や持ち場を離れられないと自分も周りも思っている人を送り出していきたい。そういう人が3ヶ月持ち場を離れることによって、周りの人がそこを何とかしようとして、実顕地も職場ももうひとまわり大きくなるし、海外実顕地も活かされるのではないか」という提案でした。

そういえば、以前養鶏法研鑽会に参加した時に、こんな話を聞いたことがありました。「地球上のすべての物は、まとまろう、まとまろうとする傾向がありますが、そのまとまりをそれ以上に大きな質の伴ったまとまりにするために、異質な物を取り入れていく。みかんを剪定する時に、上の方だけ残してあとは楔を打つようにバッサリ剪定すると、下の方から新しい芽がどんどん勢いよく出てきて、活気が出てくる」と。

○正月の全国実顕地づくり研鑽会（産業・流通編）から始まった今の動きを知って、その動きを自分の動きにしていきたい。

○また、こうした飛躍的な今の動きをもたらした源泉は、一堂に会しての、実顕地一つからの研鑽だった。

そこから見出された例題として

- 一、その気になれば
- 一、これをやるんだ
- 一、あと一押し それをやるか見逃すか
- 一、今 力を入れること

等々あげられる。

○鹿を追う猟師 山を見ず

そのとおり 山を知らず ではないだろうに

○二兎を追う者 一兎をも得ず

そのとおり その二兎を得なければヤマギシストとはいえないとしたら、どうするか

○一事に熱中しなければ、その事はなし得ない。

一事に熱中すれば、全体が見えない。

一事を成し全体を推進していくヤマギシストたらんとする事を欲する者に課せられたテーマへの取組み